

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

親心

歴史の中で「親心」を思い出される歌、二首。

一つは「這えば立て立てば歩めの親心我が身につもる老いを忘れて」親は、子供が育つ事を見ていると自分の老いて行くのも忘れるくらいうれしいものだと言つ親の心。江戸中期の井上河州が謳ったとされる。

もう一つは「親想う心に勝る親心、今日の音ずれ何と聞くらん」これは幕末の志士、吉田松陰の辞世の一つとも言われる。自分が思う以上に思つてくれるのが親、今日、処刑される手紙を見て何と思われるか、忍びない。と言つ意。親心がひしひしと感じられる歌である。

白鳥神社でも、親心のもつた品を見た。

それは秋の例祭神事の時に、神前に出る前に心身を清める為に使われる手水桶。普通は鳥居をくぐった左に常設の手水場がありこれを使うが、秋の例祭の時は、社守が手水桶の水を汲み参拝者の手にかける。この手水桶を、ある両親が神社に寄贈された。その手水桶が納めてある箱には、大切な事が書かれていた。

それは、昭和十一年に奉納された。



そこに書かれた内容を転記すると、

満州出動記念
歩兵第六十八連隊
昭和九年四月出動
同十一年五月九日凱旋
歩兵上等兵伍長勤務
稲葉小太郎

父 金之助
母 くに

謹製

宮内省御用西陣織元
御陵織物司神社装束司

京都市西陣紋屋町 十五世三上正之典

と書かれている。

これが奉納された時の世相をあらまし記述すると。

昭和六年（1931）満州事変が勃発する。翌七年には満州国が建国され、その後中国とは武力紛争の絶え間がない。そんな中の、昭和九年、稲葉家の息子・小太郎に召集令状が来た。両親は可愛い息子を戦争に出したが幸いな事に、昭和十一年に無事、帰って来た。戦争は、その後、昭和十六年、太平洋戦争へと突入してゆく。この時の息子の帰還は、神の御加護と受け取り、白鳥神社に感謝し、手水桶一式を奉納した。制作者は京都で宮内省出入りの世襲職人と伺える。かなり高価なモノに思える。親は、余程嬉しかったに違いない。今から九十年程前の温かい親心の出来事です。

昨今、安保安法案なるモノが成立した。戦争に巻き込まれる心配が高いと巷間言われております。

この手水桶を見ると、如何に我が子が愛おしいかがよく解ります。当時としては、無事の帰還を手放しでは喜べない。中には戦死しての帰還者もおられる世の中だった。親の気持ちに密やかに、神に報告し、お礼をされたのだろう。

先の戦争を経験された人達が少なくなった。政治家の中には居なくなつた。戦争の悲惨さを身をもって語れる人が居なくなり、かの大战が風化しつつある。日本は永



久に戦争をしませんと誓ったのに、昨今、戦争の出来る国に、少しづつ歩を進めている。親が手水桶を準備しなくてもいい、世の中にしなくてはならない。この手水桶は平和のシンボルとして、白鳥神社で永久に輝いてほしい。

稲荷神社祭神

五月三日、稲荷神社の例祭を挙行。田代自治会長、野々村農事組合長、寺田商工会分会長、野崎観光協会副会長、橋場交通安全協会支部長、正者白鳥踊り保存会会長、

が玉櫛を奉奠。白鳥町内各発展会長、神社総代を含めて、三十二人が出席。護国豊穰、商売繁盛を祈念し、あわせて白鳥春祭りの盛況を念じました。薫風の吹く中で、瀬上宮司の祝詞が朗々と読み上げられました。

枯渴を心配された参道脇の大櫛も南側に若葉を付けて、その生命力の強さを見せており安心しました。



宮掃除と下草刈り

七月十四日 境内宮掃除と宮の森内の下草刈りが行われた。今年は時折小雨が降る中で、雨と汗でグッシヨリになりながら頑張りました。終わって社務所前で暑気払いのビールで疲れを回復。この時、十数名の参拝客が来られました。どちらかですかと聞けば金沢からとの事。キツネノカミソリを見に来ましたと言われる。今はなく、咲くのは八月ですと返答。今、刈り込んで大丈夫ですか？と心配顔。この花は春に葉を出すのが夏に枯れて、そのあとに茎が出て花が咲く。ゆえに刈り込んでもいいと思われる。ここに咲くことを何処でお知りになりましたか？と問えば、有名ですよ！と言われる・・・???

我々は有名だとは思っていないのに・・・。どうやらネッ

トで調べられた様だ。五年前に、自分はブログに書いた。その後、中日新聞が二回にわたり紹介してくれました。それ以外のブロガー達も書いている。キツネノカミソリの花言葉は、「妖艶」です。恋愛運を上げる効果もあるとか。

参拝者はこれから長滝神社、阿弥陀が滝、石徹白仲居神社に向かうと言われる。中には御朱印を望まれる方も見えた。情報化が神社を紹介してくれている。情報に耐えられる神社にしなければならぬ。今迄、花の群生は自然に任せていた。森の中一面に咲き誇るよう皆で工夫し、自慢のできるキツネノカミソリ畑にしよう。暑気払いをしながらお客さんに教えられました。



神社補佐・新任



味な存在ですが、神社総てに精通している氏の存在は心強いモノであります。宜しくお願致します。

初宮参り

四月十四日 三名の赤ちゃんが初宮詣をされました。

永年、社守を補佐して頂きました正者憲次氏が、高齢を理由に身を引かれ、後任は、川崎弘氏に引き継いで頂くことになりました。神事の裏方として、地

無事の御出産誕生を神に報告し、この先の健やかな成長を祈願いたしました。

- 白鳥町前谷 松山真也・里見 次女 友架 さん
- 白鳥町白鳥 丸山智生・恵梨子 次男 朔来 君
- 白鳥町大島 寺本 悟・紗希 長男 新 君



七月二十一日 暑い中でしたが三名の赤ちゃんが母さんに抱かれ、元気に初宮参拝をされました。

- 白鳥町恩地 和田悦司・里奈 次男 想太郎 君
 - 白鳥町白鳥 金子真太郎・春圭 長男 誠宗 君
 - 白鳥町為真 岡田佑基・玲那 三男 嵩 君
- 前途の幸せをお祈りいたします。

池の休憩所で俳句などを・・・

境内の西側に池があり、錦鯉等が悠然と泳いでおります。この鯉は、総代衆が当番で餌やりを行い、飼育されております。そばに行くと、エサがもらえると寄ってきます。この度、この池のそばにベンチと机を備えました。

ここで一休みして、きれいな鯉などを眺めてください。夏、森の中は涼しいですよ。

木陰に休み、俳句などを捻ってみてください。投函箱を設置しました。寄せられた俳句は、当社報「宮の森」に順次掲載させていただきます。



きたいと思えます。神社でご参拝の徒然に、思いを詠んでください。宮の森を皆の森にしたいのです。

何でも結構ですので、たくさん投函して下さい。お賽銭は感謝をこめて・・・。

俳句には、想いと願いを込めて・・・。いにしへの俳人も神社を謳っております。

神送り 出雲へ向ふ 雲の脚 正岡子規
涼しさと 静けさの池 鯉跳ねる 寅次郎

令和六年八月からの行事予定

- 8 / 1 宮の森35号発行
- 8 / 4 宮掃除
- 8 / 16 境内盆踊り
- 8 / 17 拜殿踊り
- 8 / 18 例祭関係者合同会議、祭りポスター張り
- 9 / 2 例祭大神楽稽古始め
- 9 / 8 宮掃除、幟旗建て
- 9 / 20 例祭準備
- 9 / 21 秋葉神社例祭・白鳥神社例祭試案
- 9 / 22 白鳥神社例祭本案
- 9 / 23 後片付け、反省会。七五三ポスター張り
- 10 / 20 宮掃除
- 11 / 3 初宮・七五三 神事。総代会
- 11 / 19 神送り
- 11 / 23 新嘗祭・左義長神事
- 12 / 15 新年準備作業
- 12 / 31 正月初詣準備・徹夜態勢に入る

御寄進・ご奉仕

- 一、大銀杏枯枝撤去高所作業車提供..... 曾我電気様
 - 一、境内野外長椅子机制作設置..... 川崎弘様
 - 一、俳句投函箱制作設置..... 足立好教様
- 心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます。

御朱印受付

ご希望の方は0575(82) 4387・瀬上宮司まで (文責・瀬木)